

はじめに・・・

あまり馴染みのない言葉ですが「青年学級」を知っている人は少ないと思います。この「青年学級」は昭和28年に制定された青年学級振興法に基づき、主に勤労青年を対象に地域での学習や一般教養を向上させるために、勤労青年15人以上が集まり、学習内容や期間などを申請することにより、市町村がその責任において青年学級を開設するものです。

刈谷市では現在でも、小垣江青年団に青年学級開設の委託をし、市の補助などの支援によって存続しています。

しかしこの青年学級振興法は平成11年に地方分権一括法の制定を受け、廃止されてしまいました。全国各地で実施されていた青年学級は財政出動に法的根拠がなくなったことから、いたるところで廃止されてきました。そして、全国の市町村にあった、「青年の家」「勤労青少年ホーム」と言ったもっぱら青年が集い、活動してきた施設も、廃止などに拍車がかかりました。

同様に、青年対象の「講座」「大学」といった公的事業も、「青年が集まらない」「成果が見えにくい」などの理由により、次々に廃止縮小されてきたのでした。

しかし刈谷市は、法的根拠を失った今でも「青年学級」を開設しその支援を続けてきたのです。おそらく愛知県内唯一の「青年学級」が刈谷市に存在し、「社会教育」「公的青少年教育」の奇跡がここにあると言っていいと思います。

青年がその貴重な青春期中で仲間の中で身震いするほどの感動や絆を深めることは、生き生きとした青年を育て、やがて社会を支える大きな原動力となっ



ていきます。こうした実践を支援することが社会教育の原点だと思います。生涯にわたる世代の学習を支援する生涯学習の中で、青年の世代が置き去りにされやすくなっています。

ここに刈谷市小垣江青年団による、青年学級運営を調査し市町村教育委員会の青年教育に役立てていただければ幸いです。

なお、調査は愛知県青年会館公益活動推進委員会委員、愛知県青年団協議会会長、神谷幸典が担当しました。

調査研究事業、活動調査報告書

「刈谷市小垣江青年学級」

調査員 神谷幸典

【地区の概要】

小垣江青年学級は、小垣江小学校および小垣江東小学校区（小垣江町、荒井町）を拠点に、小垣江青年団として活動している。

場所は、刈谷市の最南部に位置し、刈谷市の人口約14万8千人の内約1万4千人が住んでいる。うち小垣江町が1万3千人、これは市内の町別人口でトップである。

【小垣江青年学級の歴史】

1999年の青年学級振興法廃止後も、刈谷市からは引き続き小垣江青年学級として青年団が委託を受け、現在、市内で唯一残っている青年学級として事業を継続している。担当部局は教育委員会 生涯学習課。

【現在の青年学級の概要】

人数： 全 29人 （男 19人、 女 10人）

会費（会員からの徴収）： なし （刈谷市からの青年学級委託金により活動）

運営内容： 5月 青年学級開講式

6月 宿泊研修会

11月 青年祭

2月 閉講式

（これら事業の合間にキャンプ、盆踊り、敬老会の助っ人などがあります。）

宿泊研修会を除く3事業には、刈谷市教育委員会 生涯学習課をはじめ小垣江地区長、公民館長に来賓として出席いただいている。来賓の皆様は毎回欠かさず出席されており、市や地域からの期待も高いことが伺える。

宿泊研修会では、新入団員を交えて泊りこみで語り合い、親睦を深めるとともに青年団活動を行ううえで、また社会人として必要となるであろうことを、その年の青年学級長がテーマとして定め、学んでいく。最近5年間の研修テーマは、

平成22年度 「One for all, All for one」

平成23年度 「協調性」

平成24年度 「伝」

平成25年度 「実行力～やりとげること～」

平成26年度 「続けること」

となっている。



宿泊を伴うことで、普段見られない団員の姿を見ることができ、また時間を気にせず話し合い語り合いができることで、団内の親睦に効果的である。また、近年は団運営向上に直接かかわるテーマが多く、結果的に青年団をいかに継続していくか、団員個人の意識高揚にもつながっている。11月の青年祭では、学区の小学生を招いてゲーム大会を行っている。

ゲームの内容は毎年少しずつ異なるが、基本的には団員が考え、手作りしたものとなっている。例年宝釣りや、ストラックアウト、パターゴルフ、射的、輪投げ、スリッパカーリング、ヒラヒラキャッチ（2階から紙きれを落として洗面器で受ける）、ジャストストップ（チョコQを決められた距離で止める）、ペットボトルボウリング等独創的なゲームが多く、TVゲームになじんだ子供たちにとっては新鮮な遊びとなっており、毎年たくさんの来場者がある。また、最後に来場者全員（希望者）でビンゴ大会もある（2013年度の来場者は200人超）毎年続けているおかげかリピーターも多く、青年団員に親しみを感じてくれている子が多いと思う。たくさん子どもたちが集まってくれることは団員のやりがいにもつながっている。ゲームの最中や最後のビンゴの時など、団員と子どもたちが触れ合う機会は多く、小垣江地区内の世代間交流に一役買っており、未来の団員確保に繋がっていくと考えられます。



小垣江青年学級開講式・入団式



研修会・分科会



ゲームコーナー受付



青年祭・開会式

ご覧いただいた皆様へ 要旨

- ・小垣江青年団が地域の宝となっていて、公民館役員、地区役員、地域住民が彼らを守るための努力していること。
- ・犬ヶ坪地区に青年団の事務所があり、いつでもたまり場となるところがある。
- ・公民館での印刷機、部屋、事務機の利用への便宜が供与されている。
- ・彼らは、ただ漫然と事業を繰り返しているわけではなく、高校生、中学生を助っ人にし、将来の団員を確保する努力を怠っていない。
- ・愛知県青年団協議会、小垣江青年団は青年学級の実践者として、「青年学級」「青年団」に興味ある青年や教育委員会関係者に、その成果や楽しさを伝える伝道者として活動する意思があることをお伝えする。
- ・青年学級の精神・・地域の青年が集まり、申請があれば支援する仕組みを作っておく必要があること。

以上調査員との議論をあとがきとして、伝えたい内容を箇条書きにしてみました。言葉足らずで伝わりにくいところもありますが、参考にさせていただければ幸いです。

「青年が集まらない」「何をすればいいかわからない」という社会教育関係者の声は聞きますし、青年教育の難しさは理解できます。しかし、少なくとも刈谷市小垣江青年団を見る限りこうした“社会教育会の常識”が必ずしも正しいとは言い切れないものが、ここに存在することは事実です。彼らの思いや情熱が少しでも広がっていければという気持ちでいっぱいです。

文責 (財)愛知県青年会館公益活動推進委員会